

平成 25 年度第 2 回博物館懇談会議事録

日 時：平成 25 年度 12 月 4 日（水）17 時～18 時 45 分

場 所：野田市市民会館 竹梅の間

出席者：懇談会委員・生田武士、宇佐見節子、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館長・関根一男、同学芸員田尻美和子、柏女弘道、大貫洋介、岩田明日香（書記）。野田文化広場事務局長・金山喜昭（アドバイザー）。

1、特別展「野田の絵馬～ならわし、なりわい、わざわい、たすけあい～」について

●特別展「野田の絵馬～ならわし、なりわい、わざわい、たすけあい～」展示見学・説明
大貫学芸員より博物館展示室で特別展の解説を行った（議事録省略）。その後市民会館竹梅の間に会場を移し、意見交換を行った。

●意見交換

金山：いつも運営についてご協力ありがとうございます。今年は 2 回目ということでお世話になるが、展覧会へのご意見、博物館諸活動への忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願ひします。

関根：前回の懇談会では、「野田に生きた人々 その生活と文化 2013」展について貴重なご意見をいただいた。今回は絵馬展についてご意見いただき、ひとつずつ上へ邁進していきたい。

大貫：今回は、市史編さん委員でもあり野田地方史懇話会絵馬部会の石田年子先生たちと市教育委員会の調査結果を博物館で受け、展示するというかたちとした。苦労話としては、目録のなかから絵馬を選んで現地調査を行った際、脚立をかけ、ほこり・クモの巣をかぶりながら、高い場所に掛けてある絵馬の確認を行ったこと。夏の暑いさなか、蚊にもたくさん刺された。図録用の写真撮影も絵馬が掛けてある場所が暗く、きれいに映らなかったもので苦労した。外せるものは外してスタジオで撮影した。

委員：資料の返却も大変では。

大貫：大絵馬の輸送は美術梱包の業者に依頼している。小さい絵馬は学芸員が返す。

委員：絵馬は剥落などが懸念されるのでは。

大貫：剥落を防ぐために今回の展示ではカバーをつくった。お客さんが直接触って損傷しないような設営を行った。

委員：今回の特別展は本当に素晴らしいと思った。

大貫：地域の人でも地元で伝わる絵馬を知らないという人が多い。地域によって扱いも違う。氏子さんの意識にも差がある。地域の人にもう一度絵馬を見なおしてもらいたいという想いがあった。

委員：絵馬を文化財として意識させるためには、延命地藏尊のように解析するとよいのでは。

大貫：地域の人の絵馬に対する考え方が変われば、この展示も役割を一つ果たせたかと思う。来館者数も多い。

委員：調査員と学芸員のコンビネーションがうまくいったように見える。

大貫：石田先生にはかなりご協力いただいた。寄稿もしていただいた。

委員：ある博物館では図録や展示に関しては学芸員の名前を出してはいけないという話を聞いたことがあるが、私は出すべきではと思う。野田市郷土博物館も名前が見当たらないが出した方がよい。

田尻：博物館によっては、展示の際には、いろいろなところから引用や借用をして成り立っている展示だから、個人の業績として発表するものではないという意識があるのかもしれない。一方で、展示としてまとめたことに対する責任として、名前を出す必要はあると思う。他の館ではイニシャルにしてある場合もあり、名前が分かるようになっている。当館の図録では例言に出している。

委員：展示は非常に自分好みのものだった。絵馬が奉納された神社・お寺に偏りはあったのか。

大貫：かなり均等になっている。関宿 4 割、野田 6 割ぐらいの割合だ。少ない地域は絵馬そのものが地域に残っていなかった。

委員：八幡様だと学業の額が多いと思うが、そのような偏りは。

大貫：旅関係の大絵馬が多い。

委員：特別な地域性はあるのか。

大貫：善光寺参詣が吉春などで多く見られるなどの地域性がみられるところもある。

委員：金持ちのところに多いのか。

大貫：ある程度時間とお金がないと絵馬は作れない。それだけの下地があったと推測することはできる。

委員：講で行くにもお金がないといけない。

委員：今絵馬が話題になっていると思う。算額、ムカサリ絵馬、乳授けの絵馬など、特徴的なものは野田には無かったのか。

大貫：ムカサリ絵馬、乳授けの絵馬は野田には無かった。向い目の絵馬も流山には目自体を描いた絵馬がある。今回の調査で対象となっていたのは、宗教法人登録された神社が多かったのも、個人等で所有する祠まで広げれば存在する可能性はある。

委員：ムカサリ絵馬は東北に多いという。野田のあたりまであるのかと思っていた。

柏女：今回展示した絵馬は石田先生たちの調査がベースになっている。調査されていない絵馬もまだあるかもしれない。

大貫：個人で持っている可能性はある。焼却処分されたものもあるので、存在した可能性は否定できない。

委員：今までの展示とちがって野田の地域性がでていた。郷土博物館という感じがした。関宿や福田の人も喜ぶのでは。

委員：絵馬はお焚き上げをする場合もある。そこで絵馬が焚かれてしまった可能性はあるのか。

大貫：絵馬には消耗品として認識される場合もあり、焚き上げられた可能性はある。

委員：絵馬作家がいたのだろう。

委員：野田地方の人にヒットする内容だった。周りの人にも相当紹介した。絵馬・奉納額というタイトルにしたほうがよかったか。

大貫：奉納額の一般的な認知度は低い。認知度があり見た目が映える絵馬を展示の中心とした。奉納額、写真額でも興味深いものは展示した。

委員：小中学校は来ているのか。

大貫：今のところ団体ではきていない。

柏女：学校関係ということで、先生目から見てどうでしたか。

委員：絵馬と聞いて神社にあるような小さいものというイメージだったが、説明を聞くまでは自分のなかで消化できなかった。説明してもらったようなことを子どもに説明してもらえれば、理解はできると思うし、子どもも興味をもつだろう。ただし、この時期、学校は文化祭関係で忙しい。気候がよいので、スポーツ大会の予定も入ってくるため、平日、休日ともに忙しくなる。この時期はどこの学校も校外に出て博物館まで見に来るのは難しい。内容としてはおもしろいと思う。

委員：国立歴史民俗博物館でも11月は学校からは来ないと聞いた。

柏女：南部小から団体での申込みがあった。「昔の暮らし」単元だが、絵馬も見てもらえる。

田尻：自分自身も、最初は絵馬と言えば小絵馬のイメージであった。大絵馬というものがあり、こんなに迫力があるものだという事は、調査をしてわかった。チラシでは、絵馬が大きいことがわかるようにすればよかった。図録にも図版に付随する形で法量を載せていないことは反省事項である。

田尻：行楽シーズンなのでシニア世代にはよく見てもらっている。

委員：夏休みはどうか。

田尻：今年度はナ連合の「野田の自然」展を夏休みに合わせて子ども向けとした。

田尻：また、以前より懇談会のご指摘をいただいていた学校を対象とした取り組みについて、今回は絵馬展の子ども向け関連事業のチラシを試験的に2500枚作成し、中央小、宮崎小、柳沢小、清水台小の全児童に渡るように配布した。先生のなかには喜んでくださった先生もいた。実際にチラシをみて申込みしてくれた人もいたが、爆発的には申込者は増えなかった。

金山：関連事業の集客が結局よくない。子どもを動員するツールとして、チラシは効果がないということか。

田尻：チラシ配布を続けることで、申込みはしなくても博物館のアピールになるのではないかと思う。申込み行為にまではつながっていなくても、館の活動の潜在的なアピールになるため、続けるべきと感じる。

委員：このチラシだと、絵馬のイメージが従来の小絵馬のイメージになってしまい、展示と合っていない。講座チラシが逆効果だったのでは。

田尻：講座のチラシなので止むを得なかった。絵馬と言えば小絵馬を知っているでしょうけど、本当はもっと大迫力だということを伝えられるとよかったのかと思う。

金山：茂木本家美術館では市内全校の子どもたちを無料で招待している。今年からではなく何年も継続してやっている。それでも利用者が少ないと言う。

委員：茂木本家美術館は敷居が高いというイメージがある。

金山：なぜ子どもの来館者が少ないのか。いつ来てもよいことになっている。学校で子どもたちにどういう伝え方をしているのかがポイントになると思う。今回の講座チラシを作って配布したときは、どのような方法をとったのか。

田尻：市の社会教育課、学校教育課を通して配布した。

金山：どのように配布しているか様子がわからない。学校内での周知の在り方がみえない。学校での周知はどういうものなのか。

委員：ポスターが学校にまわされてきて、掲示板にはる。各クラスにチラシがもらえれば教室にはる、というのが一般的か。

金山：教務主任が窓口なのか、どなたに情報を流せば一番周知してもらえるのか。

委員：実務をしきっているのは教頭なので、教頭が一番よいのではないか。

委員：学校の授業で地域の信仰や絵馬について学ぶ機会は。

委員：小学校 3 年生で昔の暮らしという単元がある。昔の道具の使い方やどうやって暮らしていたかを学ぶ程度である。信仰まではいかない。

金山：今度子ども向けのチラシを作成した場合には、教頭先生に直接渡すほうがよいかもしれない。役所からだ事務的になってしまう。直接言ったほうが良いと思う。

田尻：今回のチラシは社会教育課からの助言があって配布したため、市役所を通したが今後はそのように変えていく。

委員：国立歴史民俗博物館でも周辺の佐倉、成田あたりの学校に渡すそうである。あとは外国人の来館に力をいれているそうだ。

金山：意見を聞けたから、参考にしていきたい。

委員：私はこのよう場に呼んでもらっているので、チラシがまわってきたら子供に紹介しているが、ここに参加していなければ、正直、ふーんで終わってしまうと思う。

金山：今回は目に入るようにカラーにしてみた。

委員：商売人の立場からすると、チラシには爆発的な影響はない。定期的にチラシを出すことによって、郷土博物館があるということを刷りこんでいくことには効果がある。これがないと博物館があることすら知らないだろう。チラシを渡したから何人くるというものではない。期待せずに、将来を見据えて続けることが大切なのでは。

田尻：私も同じ意見である。ただ、お金、時間と労力との対比で今後の進め方は検討する必要がある。

委員：子ども向けであるならば、図書館にもチラシを置いた方が子どもは見るのでは。

関根：講座は無料にしたほうが良いのか。

委員：無料だから人が集まるという問題ではない。

委員：幼稚園生だとお父さんお母さんが一緒にきてくれるのではないか。

田尻：このチラシは市民会館を利用する親子連れにも手渡しで配布してみている。手渡しした感じでは、今回はピンときていなかった様子だ。講座の企画と展示が一致していなかった。最初は午の年賀状をつくろうと考えていたが、別の公民館で企画していたので企画を変更したという経緯もある。

柏女：年賀状だと、より展示内容とずれてしまったかも。午という共通点しかない。

田尻：絵馬展は関連事業と結びつけにくい展示だった。

金山：「野田に生きた人々 その生活と文化」展は4月からはじまる。小学校6年生の歴史の授業をターゲットとして設定している。4月～6月の子どもがくる時期、学校で勉強する内容と展示の内容がずれているのではと懸念している。

委員：運動会を春に開催する学校もあるなかで、5月中旬までは学級づくりでばたばたしている。博物館へ行くより出張授業のほうがよい。

委員：学校の予定は、どこが管轄しているのか。

委員：入学式や卒業式など共通の予定を除けば各校独自である。

委員：学校の年間スケジュールを集めて対応すればいいのでは。

委員：すべての学校が運動会を春開催しているわけではない

田尻：子ども向けの事業を企画する場合は、全市的な学校事業の日とかぶらないか、学校教育課に確認するようにしている。夏休みの勾玉講座など。

委員：我々懇談委員はいつも学芸員の方の解説付きで見られるが、一般のお客さんはどうなのか。

大貫：月1回、特別展期間中に3回ギャラリートークで解説を行う。

委員：毎日1回やることは可能なのか。たとえば土日だけでも。それだけで人が集まるとは限らないが、解説つきだとやはり面白く見ることができる。個人的なつながりができれば、連鎖的に増えていくかもしれない。小さい博物館でしかできないことをやってみてはどうか。国立だと学芸員の解説をなかなか見ることができないので。

委員：ギャラリートークの頻度が少ないと思う。

金山：週1回くらいやってもよかったか。

委員：小学生の団体にはどのように対応しているのか。

田尻：小学生や、事前に予約していれば学芸員が対応する。個別の質問には答えるようにしている。

委員：なかなか質問はしづらい。

田尻：特別展期間中はボランティアに常駐してもらい、出来る限りの範囲で解説もしてもらっている。勉強会も開いている。

委員：名称としてはギャラリートークよりギャラリーツアーのほうがよいか。

委員：音声ガイドはどうか。

金山：大きい博物館でしか見たことがない。小さいところにはないだろう。

田尻：これからは小さい博物館でもスマートフォンなどを駆使し、音声やコンテンツをダウンロードできるような仕組みもできる時代がくるだろう。

委員：マンパワーも親しみやすくてよい。

田尻：そうだと思う。お客さんによっては解説なしで静かに見たいという人も多く、ギャラリートークに大勢が集まる様子はない。しかし、説明を受けてみるとより一層分かった、聞いて良かった、となることが多いので、そういう意味でも、もう少し回数が多くてもよかったか。

金山：ギャラリートークの回数は増やしてもいいだろう。皆さんの意見は貴重だ。

2、その他

●第1回懇談会での検討事項について

柏女：前回の懇談会でグッズの話をした。「野田の自然」展の際に、会期限定でガチャポンマシンを設置し、昆虫と植物のカンバッジを販売した。子供向けを意識したものである。写真は展示を行ったナナ連合に提供してもらった。

田尻：親御さんと一緒に子どもも買っていた。

柏女：ミミーのキャラクター化も進めている。

田尻：ミミーのカンバッジ製作を予定している。絵葉書も進めている。

委員：関宿の土器を使って関宿図書館で展示していたようである。「野田に生きた人々 その生活と文化」展の際に、関宿の土器が展示していないことについて聞いたところ、関宿の土器はないとのことだったがあるのではないか。教育委員会の管轄なのか。

田尻：そのイベントについては市報で確認したが詳細はわからない。

委員：調べてみたほうがよい。遺跡説明会もあったようだ。整合性をもったほうがよい。

田尻：展示の際には、社会教育課に、関宿の物を確保してもらえるように頼む必要があるだろう。

関根：関宿との合併十周年である。竜王戦もやった。

●今後の博物館事業予定について

金山：今後の展示計画についてご意見いただきたい。

柏女：平成26年度は4月～6月に「野田に生きた人々 その生活と文化」展、7月から特別展として野田の漫画、秋にはむらさきの里野田ガイドの会が市民の文化活動報告展として展示する。今年度でいうと、絵馬の後は日本刀展である。刀剣展は指定管理前にも定期的にやっており、2008年度にも開催した。刀剣会の現在の会長は宇田川進氏である。

金山：刀剣展では関連イベントで詩吟コンサート、抜刀実演会も実施する。

委員：昔は婿養子に行くときに脇差をもってきたという。

委員：刀剣展は小学生には来てもらえないか。

田尻：最近では、エヴァンゲリオンというアニメとコラボしている例など若い客層を博物館にとりこむ試みも行われているようだが。

委員：学校の都合を聞いてではないと、せっかく子どもたちの興味あるものでもなかなか来られない。

田尻：来年度、夏に漫画の展示を行うことで、子どもたちにも来てもらいたい。

委員：ますむらさん、池沢さんに特別講演や特別実演してもらおうと人が来るのではないか。

講演依頼したほうがよい。ますむらさんの漫画が大すき。原画は残っているのか。やり方次第で人は来る。

金山：本日はありがとうございました。次回もよろしくお願いします。